

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成27年8月27日(2015.8.27)

【公表番号】特表2011-521654(P2011-521654A)

【公表日】平成23年7月28日(2011.7.28)

【年通号数】公開・登録公報2011-030

【出願番号】特願2011-512010(P2011-512010)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 1 2 N	7/04	(2006.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/187	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
A 6 1 P	37/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/12	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	A
C 1 2 N	7/04	
A 6 1 K	39/00	H
A 6 1 K	39/187	
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 P	31/04	
A 6 1 P	37/00	
A 6 1 P	31/12	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年7月8日(2015.7.8)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0040

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0040】

医薬調製物(例えば、ワクチン)中のレプリコンの使用のために、レプリコンは、裸のRNAとして使用してもよい。このことは、RNaseによる分解に対するRNAの保護、例えば、RNAキャッピングによる保護、を必要とする。或いは、ペスチウイルスレプリコンを、適当な微粒子送達ビヒクルと伴わせてもよい。これらは、RNAの保護を促進し得る一方で、RNAがそのコードタンパク質を翻訳し得る細胞へのRNAの送達の効率増大を促進し得る。この目的のために、RNAは、後者のタイプを作製する時に、微粒子送達ビヒクル中に封入するか、又は、予め形成された粒子中に添加する。それぞれの場合において、RNA及び粒子の相補的電荷を利用することにより、RNAの粒子との相互作用を増加させることができる。或いは、RNAは、ポリエチレングリコール修飾粒子表面等のリンカーを介して、粒子と物理的に結合させることができる。RNA送達の可能性を有するかかる粒子ビヒクルの例は、リポソーム、マイクロ粒子、ナノ粒子又はナノカプセルである。薬物担体としてのリポソーム、マイクロ粒子、ナノ粒子又はナノカプセルは、当技術分野において周知であり、これらは、本発明において、微粒子送達ビヒクルと考えられる。